

対象病害	処理薬剤	処理方法	注意事項	
種子消毒 (いもち病、 ばか苗病)	テクリード C フロアブル	200 倍に希釈した液に 24 時間浸漬する。	種モミ1kgに対して 希釈した薬液量1.7ℓの 割合で処理する。	① 液温は 10℃以上(15℃前後が理想)とする。 ② 消毒後は水洗いせず、浸種する。浸種まで日にち が空く場合、陰干して風乾させる。 ③ 使用後の薬液は毒性が強いので河川に流したりせ ず、適切な処理をする。
苗床 (苗立枯病)	タチガレエース M 粉剤	育苗の床土5ℓ当りに 6～8g混和する。	① 薬量が多いと生育に害が出るので適正量で使用する。 ② は種当日の混和を基本とする。事前使用では効果が落ちる場合ある。	
苗箱施薬 (害虫、 いもち病)	ルーチンデュオ箱粒剤	育苗箱1箱当り 50g	① いもち病の心配がない圃場ではパディート箱粒剤に代えて使用する。 ②移植当日に使用する場合は、植付け直前に散布する。 散布後長く放置すると薬害が発生するため、早めに植えつける。	

散布 日	散布時期	散布薬剤(10a当り)		代替農薬(10a当たり)	注 意 事 項
月 日	特別散布 代かき直後	農将軍フロアブル	500ml		① 田植えが代かきから7日以上後となる場合に限り 実施する。 ② 実施した場合、散布後7日間は落水しない。 ③ 代かき直後の水が濁っている時に散布する。
月 日	第1回 田植え 翌日	アピログロウMX1キロ粒剤	1kg	【省力】 プライオリティジャンボ (250g) 農将軍フロアブル (500ml)	① 除草剤散布後3日間は入水しない。 地面が露出してしまう場合は、露出する前に入水 する。 ② 代かきから第1回の除草剤までの日数が空くほど、 雑草発生リスクはあがる。 ③ 藻の発生が心配される場合は農将軍フロアブルを 散布する。
ガス湧き対策(田植え10日後) 田に入った時に泡がブクブクと発生する場合は、田植え10日後から5日間程干してガス抜きをする。 入水後は第2回の防除を実施する。					
月 日	第2回 田植え 14日～ 20日後	レブラス1キロ粒剤	1kg	【省力】 レブラスジャンボ (400g) カウントダウンフロアブル (500ml)	① 雑草の発生に応じて実施する。 ② 雑草の初期発生を見逃さないために、田んぼを覗 き込んで確認する。水面から出る前に早めに実施 する。
月 日	特別散布 中干し期 (落水処理)	【粒タイプ】 バサグラン粒剤 【散布タイプ】 クリンチャーバス ME 液剤	3～4kg 水 100ℓに 1,000ml		① 雑草が発生している場合実施。 ② 散布後4日間は水を入れない。 ③ 散布後2日間に降雨があると効果が落ちるので、 天候に注意する。 ④ バサグランはヒエには効果がないため注意。
月 日	特別散布 いもち病 出穂 20日前	コラトップジャンボP	小包装 10～13 個 (500～650g)	ブラシン粉剤 DL	① いもち病の穂への感染を抑える目的で実施。 ② 湛水状態で使用する。 ③ 感染を予防するためなので、遅れると効果が薄い。
月 日	特別散布 出穂 7日後	カメムシ対策 スタークル豆つぶ	250g	Mr. ジョーカー粉剤	① 湛水状態で散布する。 ② 散布後3日間は、有効成分が薄まらないよう入水を 控える。

水持ちの悪い田には粒剤がオススメです。ジャンボ剤は風の強い時の使用を避けましょう。